

ドラッグインフォメーション

2020年2月改訂

販売名	エルエイジー10液			製造販売	吉田製薬株式会社					
洋名	LAG-10 solution			発売年月	平成2年4月					
一般名	アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩液			薬価収載年月	平成2年4月23日					
剤形	液剤	規制区分	普通薬	日本標準商品分類番号	872619	健保適用				
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2619716Q1029			YJコード	2619716Q1029	薬価	10% 10mL 6.60			
本剤の特徴	<p>広範囲のグラム陽性・陰性菌、真菌に対して迅速な殺菌作用を示す。 結核菌に対しても優れた効果を発揮する。 タンパク質などの有機物共存下においても効果の減退が少ない。 洗浄力と浸透力が優れている。 ノニオン界面活性剤との混用が可能である。 活性汚泥菌に対して安全で水処理能力を阻害しない。</p>									
性状	<p>帯黄色の粘性な液で、わずかに特異なにおいがある。 比重d_{20}^{20}:約1.01 pH(1→10):7~9</p>									
組成	<p>本剤はアルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩(RNHCH₂CH₂NHCH₂CH₂NHCH₂COOH・HCl)として9~11w/w%を含有する水溶液である。添加物としてpH調整剤を含む。</p>									
構造式	<p>[RNH・CH₂・CH₂・NH・CH₂・CH₂・NH・CH₂・COOH]HCl Rは主としてC₁₂H₂₅である。</p>									
効能・効果及び用法・用量	本剤はアルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩として下記の濃度になるよう水で希釈して、次のように用いる。									
	効能・効果			用法・用量						
	医療機器の消毒			0.05~0.2%溶液(50~200倍)に10~15分間浸漬する。なお結核領域において使用する場合は、0.2~0.5%溶液(20~50倍)を用いる。						
	手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒			0.05~0.2%溶液(50~20倍)を布片で塗布・清拭するか、又は噴霧する。なお結核領域において用いる場合は0.2~0.5%溶液(20~50倍)を用いる						
	手指・皮膚の消毒			0.05~0.2%溶液(50~20倍)で約5分間洗った後、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。						
	手術部位(手術野)の皮膚の消毒			0.1%溶液(100倍)で約5分間洗った後、0.2%(50倍)溶液を塗布する。						
使用上の注意	手術部位(手術野)の粘膜の消毒			0.01~0.05%溶液(200~1000倍)を用いる。						
	皮膚・粘膜の創傷部位の消毒									
	<p>1. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1"> <tr> <td>種類/頻度</td> <td>0.1~5%未満</td> </tr> <tr> <td>過敏症(注)</td> <td>発疹、そう痒感</td> </tr> </table> <p>注) 症状があらわれた場合には使用を中止すること。</p> <p>2. 臨床検査値への影響 本剤で消毒したカテーテルで採取した尿はスルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。</p> <p>3. 適用上の注意 (1)人体 1)使用時 ア. 外用にのみ使用すること イ. 原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。 ウ. 散布消毒の場合はマスクを着用するなど注意すること。 エ. 濃厚液の使用により皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。</p>							種類/頻度	0.1~5%未満	過敏症(注)
種類/頻度	0.1~5%未満									
過敏症(注)	発疹、そう痒感									

使用上の注意

オ. 炎症又は易刺激性の部位に使用する場合には、正常部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。

カ. 粘膜・創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと。

2) 調製時
深い創傷に使用する場合は希釈液としては、注射用蒸留水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。

(2) その他
使用時
石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。

(3) 緊急処置
1) 眼に入った場合
洗浄の際、眼球、瞼のすみずみまで水がよく行きわたるように、清浄な水で15分以上目を洗浄したあと、直ちに適切な処置をおこなうこと。

2) 飲み込んだ場合
水でよく口を洗い、水または牛乳を飲ませ(無理に吐き出させない)、直ちに適切な処置を行うこと。

薬理作用

1. 界面活性剤の殺菌作用は、菌の外膜である細胞壁を破壊してタンパク質を変性させる作用によるものであるが、両性界面活性剤の殺菌作用は比較的強く、陽イオン・陰イオン・非イオン性界面活性剤や金属が共存していても逆性石けんのようにならなことがない。また陽イオン界面活性剤が無効である結核菌などの抗酸菌に対しても殺菌力を示す。

本剤の各種細菌に対する殺菌力(滅菌率)

菌 株	濃 度	作用時間(分)				
		0.5	1.0	2.0	5.0	10.0
<i>S.epidermidis</i> IFO 12993	12.5ppm	25.51	37.09	64.51	87.81	96.42
<i>S.aureus</i> FDA 209-P	125ppm	36.19	57.53	75.87	91.79	96.66
<i>E.coli</i> IID 861	25ppm	24.07	36.75	42.13	57.26	66.49
<i>P.aeruginosa</i> IID 1042	6.25ppm	52.98	61.11	69.57	75.74	80.56
<i>C.albicans</i> TIMM 0134	16.67ppm	29.48	35.57	41.85	50.09	64.16

(単位:%)

2. 本剤の殺菌力は逆性石ケンとほぼ同濃度でさらに広範囲なグラム陽性・陰性菌に短時間(1~5分)で殺菌力を示す

3. 本剤の結核菌に対する殺菌力は、有機物共存下でもクレゾール石ケン液に匹敵する。

4. 本剤はタンパク質を吸着しない。したがってタンパク質存在下においてもその殺菌力は、一般消毒剤や逆性石ケンと異なり減少しにくい。

毒性

LD₅₀: ラット 経口 30g/kg (10%アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩として)

安定性

本剤を40°C-75%RHで6カ月間保存したときの定量値
initial:10.1% 2カ月:10.0% 4カ月:10.1% 6カ月:10.0%
0.1%溶液(本剤の100倍溶液)を1カ月間室温で保存後の残存率は95%であった。

本剤は経時的に黄変が進む場合があるが、品質に問題はない。

取扱上の注意

1. 次の医薬品が混入すると沈殿を生ずるので注意すること。
ヨードチンキ、マーキュロクロム、硝酸銀、プロテイン銀、フェノール、過酸化水素、過マンガン酸カリウム、タンニン酸、スルホサリチル酸、スルホサリチル酸ナトリウム、重クロム酸カリウム等

2. 金属器具を長時間浸漬する必要のある場合には、0.1%の割合で亜硝酸ナトリウムを溶解すること。

3. 貯 法: 遮光した気密容器

備考	包装単位 500mL、3L	文 献 請求書	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10
----	------------------	------------	--------------------------------